



2018年 千葉市議会第4回定例会 11月27日～12月14日



本年も生活者の声を聴いて政策に生かし、 住みよいまちづくりをすすめます。



昨年暮れの市議会定例会では市議会議員松井かよ子(美浜区)が一般質問を、いわさき明子(若葉区)が議案質疑と討論を行い、生活者の声をしっかり市に届けました。

松井かよ子 の一般質問から(12月13日)

石炭火力発電所はNo!



発電所に山積された石炭(山口県)

フクダ電子アリーナ(蘇我)の海側に石炭火力発電所の計画があります。石炭火力発電所について、仙台市は独自の指導方針で「立地の抑制」を求めています。千葉市は事業者に対して「環境負荷の低減」の意見を述べるにとどまっています。市の姿勢をはっきり示すよう求めました。

自然教室の行き先は?



室内用キャンプファイヤー(那須甲子)

高原千葉村が今年3月で閉所となります。来年の中学2年生自然教室の候補地は、教育委員会内の会議で赤城(群馬)・那須甲子(福島)に決めたとのこと。原発事故による放射能汚染を心配する保護者の疑問に対し、丁寧に説明するよう求めました。

誰でも相談できる体制を!



千葉市あしんケアセンター

あしんケアセンターは、高齢者の総合相談窓口です。しかし現状では、例えば日本語が不自由な高齢者の場合、通訳は主に家族が担っています。付き添いがいなくても相談をあきらめずにすむような、支援体制づくりを要望しました。

このマークは、何だ?



JR京葉線内でのこと。優先席に座っていた若い女性に向かって「なぜ席を譲らないのか」と文句を言う高齢の男性がいたそうです。男性は女性がつけていたマタニティマークを知らなかったとのこと。多世代へのさらなる広報や啓発を求めました。

ちば自主夜間中学へのサポートは?



何らかの事情で不登校の人、または中学を卒業していない人等の学びの場である夜間中学ですが、10月から市民団体による「ちば自主夜間中学」が美浜区で始まりました。場所や教材の提供等、千葉市の積極的な支援を要望しました。

稲毛高校に国際バカロレア課程を!



市立稲毛高校(写真)の入試を廃止し、完全中高一貫校の設置を検討中です。閉鎖的な環境でグローバル・リーダーの育成を目指すのではなく、国際色豊かな学びの場として「国際バカロレア課程*」の導入を提案しました。

*この課程の修了者には、世界各国の大学への入学資格が認められる。都立国際高校、札幌市立開成中等教育学校で導入済。

いわさき明子 の討論から(12月14日)

全ての小中学校にエアコン設置



全小中学校普通教室等への冷暖房設備の設置が決定。2020年度完了にむけた実施設計の補正予算がつかしました。

工事のスケジュールは学校によって異なるため、保護者へ丁寧な説明を行うよう求めました。

熱中症対策は冷水機と扇風機で



エアコンが使用できるまで時間がかかるため、各校に冷水機と体育館用大型扇風機の導入が決まりました。

合わせて体操服登校や、温・湿度の指針に沿って屋外活動の可否を判断するなど、学校現場でのソフト的な工夫で熱中症予防に努めるよう要望しました。

事業系ごみの削減が一步前進



小規模でもごみを大量に出す事業者(飲食店など)は、廃棄物の減量計画書の提出や廃棄物管理責任者の届け出等が義務化されます。

定期的な立入調査でごみ減量の具体的な方策をアドバイスし、事業者のごみに対する意識改革を図るよう求めました。

**千葉市と県の水道事業統合を求める意見書
全会派の賛成で県に提出へ**

千葉市民が使う上水道は、千葉県、千葉市、四街道市の3つの水道局が給水しています。

若葉区と緑区の一部に給水する千葉市の水道事業は、対象人口が5万人未満と小規模で、また市街化調整区域など人口密度の低い地域が多いため、経営効率が良いとは言えません。今後は給水人口の減少や施設の老朽化などにより、さらに厳しい経営状況が見込まれます。

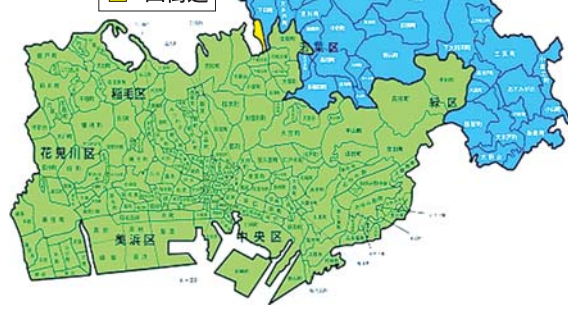
経営基盤が県営水道に一元化されれば、事業の効率化と災害に強く安定した水の供給が望めることから、今回「市水道事業を千葉県へ統合する協議を開始すること」を求める意見書が、全会一致で採択されました。

蛇口からいつでも安全な水が出るのが、当たり前にはななくなっています。先の国会では改正水道法が成立し、水道の民営化を検討する自治体も出ると予想されます。

水道は、暮らしと命にかかわるインフラです。あり方を検討する際は、意見交換会の開催など、市民の声を聞く機会を設けるよう求めていきます。

給水区域

■ 千葉市
■ 千葉県
■ 四街道



地域の要望が市長に届く「予算要望書」

予算要望書は、私たちが重点を置いて欲しい事業を、市長に直接伝え、予算をつけてもらえるよう要望するものです。毎年、地域住民と一緒に内容を考えています。昨年10月25日、熊谷市長に提出しました(写真)。

下記に一部を掲載します。次回の要望にむけて、あなたのご意見をぜひお寄せください。



福祉

24時間365日の相談体制で、

- ・高齢・障がい・子ども等、分野横断的な支援
- ・関係機関のコーディネート
- ・高度な専門性を持つ寄り添い支援を行うこと。

女性の働く

若年女性無業者^{*}への支援プログラムを、男女共同参画センターで企画すること。

^{*}15～34歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない女性



まちづくり・防災

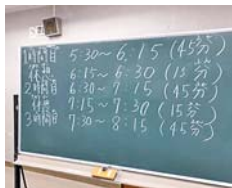
災害時に誰でも避難所運営の初動体制を作れるように、地域の避難所運営委員会に対して啓発すること。



避難所開設訓練

教育

中学校の形式卒業生や、日本語指導が必要な生徒の「学ぶ権利」を保障するため、夜間中学の開設に向けての検討を進めること。



環境

海洋環境を汚染するマイクロプラスチックの発生を防ぐため、市民が日常生活を見直すよう啓発すること。



市民参加と協働

各区に市民活動支援センターと同等の相談窓口や情報提供機能を置くこと。



多様性の尊重



人権問題を担当する部署を設置し、包括的な人権施策を進めること。

オリンピック・パラリンピック

来訪者や市民にとって移動しやすいまちづくりを目指して、例えば「パーク&ライド」や「循環バス」を取り入れるなど、交通機関の整備をすること。

子どもの貧困

スクールソーシャルワーカーが直接児童・生徒へのアウトリーチできるよう、体制を整えること。



さいたま新都心駅前、さいたま赤十字病院(民間病院)と埼玉県立小児医療センター(公立病院)があります。それぞれ別の病院ですが、上階の通路で建物がつながっています。赤十字病院の産科で、低体重・多胎・疾患などハイリスクの赤ちゃんが産まれると、すぐに小児医療センターのスタッフや赤ちゃんと迎えに行き、新生児治療がスタートします。

NICU(新生児集中治療室)は30床あります。2016年12月に小児医療センターがさいたま新都心に移転したの体制になってから、埼玉県内のハイリスク妊婦さんが赤十字病院に入院し、そのまま母体も新生児もケアを受けられるようになったそうです。



いわさき明子と松井かよ子

視察報告

やればできる! 病院連携

公立病院、民間病院の垣根を越えて、不足する産科や小児科の医師を取り合うのではなく、病院相互に補完・連携すること

・病院として必要な役割を決め、「なんでもあり」ではなく「ここにしかない」に特化すること

が重要です。ほかにも、小児医療センターには、子どもたちが入院前と変わらない教育を受けられるよう県立の特別支援学校が併設されていたり、付き添いの家族が滞在できるドナルド・マクドナルド・ハウスが病院に設置されていたりと、子どもにも特化した「ここにしかない」環境を提供しています。患者の目線で病院のあり方を考えていく必要性を実感しました。



NICUを見学

ご参加ください 議員とお話しませんか?

意見交換会のご案内

- 1月29日(火) 13時半～15時半 大宮台(若葉区) 自宅で住み続けるためにできること
- 1月30日(水) 13時半～15時 みはまネット事務所(稲毛海岸) 2019年千葉市に望むこと
- 1月31日(木) 13時半～15時半 都賀コミュニティ(若葉区) 家族信託(実家を空き家にしないために)
- 2月1日(金) 10～12時 千城台コミュニティ PTAお悩み相談室
- 2月7日(木) 10～12時 幕張本郷(花見川区) ミニ意見交換会

詳しくはお問い合わせください

